

8:9 私はこのすべてを見て、私の心を注いだ。日の下で行われる一切のわざについて、人が人を支配して、わざわいをもたらす時について。

8:10 すると私は、悪しき者たちが葬られて去って行くのを見た。彼らは、聖なる方のところから離れ去り、わざを行ったその町で忘れられる。これもまた空しい。

8:11 悪い行いに対する宣告がすぐ下されないので、人の子らの心は、悪を行う思いで満ちている。

8:12 悪を百回行っても、罪人は長生きしている。しかし私は、神を恐れる者が神の御前で恐れ、幸せであることを知っている。

8:13 悪しき者には幸せがない。その生涯を影のように長くすることはできない。彼らが神の御前で恐れないからだ。

8:14 空しいことが地上で行われている。悪しき者の行いに対する報いを受ける正しい人もいれば、正しい人の行いに対する報いを受ける悪しき者もいる。私は言う。「これもまた空しい」と。

8:15 だから私は快樂を賛美する。日の下では、食べて飲んで楽しむよりほかに、人にとっての幸いはない。これは、神が日の下で人に与える一生の間に、その労苦に添えてくださるものだ。

8:16 私が昼も夜も眠らずに知恵を知り、地上で行われる人の営みを見ようと心に決めたと

8:17 すべては神のみわざであることが分かった。人は日の下で行われるみわざを見極めることはできない。人は労苦して探し求めても、

見出すことはない。知恵のある者が知っていると思っても、見極めることはできない。

神はない、この世はむなしい…という人の一つの根拠は、悪者がそのままにされているではないかということです。神がいるなら正義のさばきがあるはずだということです。それに対して伝道者は確かにそのままでは「むなしい」、神がないなら「食べて、飲んで、楽しむよりほかに、人にとって良いことはない。」と認めます。

しかしこれは神がないならという前提に立てばという話です。「すべては神のみわざ」であって、「人は日の下で行われるみわざを見きわめることはできない」のです。ですから、「悪い行いに対する宣告がすぐ下されない」からといって、神はないということにはないのです。

むしろ「悪い行い」へのさばきが下されるなら、誰もが滅びを宣告されるわけで、忍耐を持って待っていてくださるのが神です。私たちはその救いを伝える伝道者です。

むなしさから解放された私たちは、それにふさわしい意義ある生き方によって世の光となって、この書の伝道者のように、救いを伝えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

